

各位

2019年7月25日

半導体産業において、重要な役割を持つイメージセンサの受光素子である、Pinned Photodiodeの発明者は、もとSONYの萩原良昭氏です。萩原良昭氏が1975年に出願した、以下の3件の日本国特許がその証拠です。

昭50-127646、昭50-127647、昭50-134985

この3件の特許の実施例には、この受光素子構造が Interline Transfer 方式の CCD Image Sensor にも応用できると明示しています。CMOS Image Sensor にも適用可能で、広く現在採用されています。萩原良昭氏の業績は社会的に認知されるべきものです。

ソニー半導体OB会

会長 露木忠晴

露木忠晴

有志 川名喜之

川名喜之



加藤俊夫

加藤俊夫

2019年6月より、SONYのOBで東京工業大学の若林整教授と、もとSONYの常務で中央研究所の渡辺誠一博士のご好意により、日本発明協会の、発明協会のHPの記載の訂正をお願いしていただきましたが、無視され、現在に至ります。非常に理不尽な日本発明協会の無責任な対応に非常に不満を感じています。どうすれば事実誤認記載を訂正してもらえるのかと、思案を巡らし、IEEEの学会での論文発表で事実を説明する努力を始めました。SONYも半導体産業人協会の学識見識者は、無力で、ただただ静観しているのが現状です。